

今年度検討会の方針

国土交通省総合政策局
モビリティサービス推進課
令和4年5月24日

令和3年度 検討会の振り返り

総論

- ✓ デジタル化へのインセンティブが小さいエリアや事業者にフォーカスを当てた国の取組の必要性が大きいのではないか
- ✓ 既に行われている民間事業者の取組への影響という観点において、エリア、モード、事業者をまたいで広く共通化、標準化といったことを行うのは慎重に検討した方がよいのではないか
- ✓ 昨今の観光・移動需要の減少を考慮する必要があるのではないか

チケットング

- ✓ 手法そのものの統一化についてのニーズは小さく、様々な手法が存在する前提に、地域特性や利用者の属性などエリアの性質や、顧客接点、商品造成など競争性の高い部分を阻害しない手法間の連携を検討する必要
- ✓ 既存のシステム/機器の改修やリプレイスに伴うコスト負担を考慮する必要
- ✓ 不正利用防止対策・セキュリティ対策についての一定の基準や、トラブル発生時の責任分界について検討する必要

リアルタイムデータ

- ✓ データ整備に係る費用と人的リソースの確保について検討する必要
- ✓ データ提供に係る費用とその負担のあり方について検討する必要
- ✓ データの正確性・信用性・意味合いを担保する仕組みや責任分界について検討する必要
- ✓ データ形式やAPI仕様について、その取扱いを引き続き検討する必要

- まずは、デジタル化へのインセンティブが小さいエリアや事業者にフォーカスを当てつつ、それ以外の事業者も含めて、任意性が担保された、MaaSやそのためのデータ連携の取組の土台となる仕組みが必要ではないか。

交通分野におけるデータ連携の高度化実現に向けた検討会

目的

- 公共交通の維持・活性化、訪日外国人旅客の移動利便性の向上、公共交通等によるシームレスな移動の実現のためには、**更なるデータの連携・利活用を推進し、高度化する必要がある。特に、リアルタイムに変化する運行情報や、予約・決済情報等の動的なデータ**について高度化を推進し、**予約・決済さらにはサービスを利用するまでシームレスにすることの意義や課題、解決の方向性等について引き続き検討**する。
- **中間とりまとめ**で整理した内容をもとに、**データ連携の高度化“実現”に向けた仕組み**について検討する。

検討項目

① チケット

- カテゴリー・取組フェーズの具体整理
- 多様なツールが存在する前提の連携方法
- 段階分けして働きかける対象を具体検討

② リアルタイムデータ

- 利用シーンに応じた整理
- 国の役割についてさらに検討
- モード・距離別のニーズを踏まえた定義づけ

③ データ連携のあり方

- **中小・地方部事業者を中心に**正確な現状を把握し、ニーズを整理
- データ連携基盤とリアルタイムデータの取引機関の意義と現状を整理
- **既存組織**や**デジタル庁**と協力・連携を図る

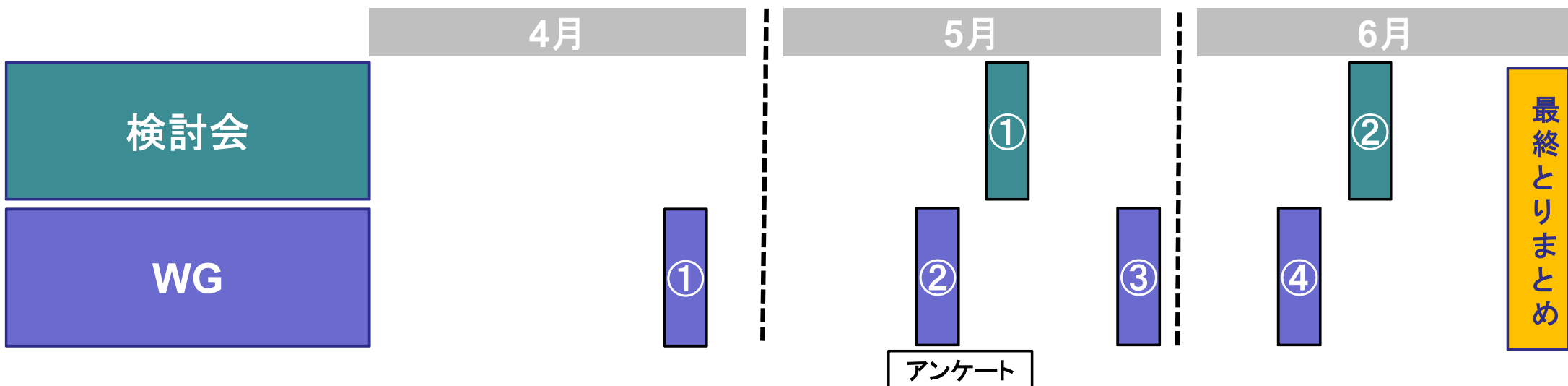
6月末
とりまとめ
公開

全体スケジュール

主な検討事項

- i) チケットングにおけるデジタル化に向けたステップ整理
- ii) リアルタイムデータの意義・定義及びステップ整理
- iii) データ連携のあり方のイメージ

＜ 機動的なWGの場で議論を具体化し、検討会で議論・確認する流れを想定 ＞



検討会

- ① WG①②を踏まえた最終とりまとめの方向性を共有
 - ＞チケットング、RTのステップ整理
 - ＞データ連携のあり方のイメージ具体化
 - 指摘事項や議論整理し、WG後半2回で具体化
- ② 最終とりまとめ案検討

WG

- ① これまでに整理した事項および追加で検討する事項を整理
- ② チケットング、RTのステップ整理
データ連携のあり方のイメージ整理
⇒最終とりまとめの方向性策定
- ③ 最終とりまとめの方向性について、検討会①の指摘事項を検討
- ④ 最終とりまとめ案検討